

Camera Report

カメラ・リポート

町 まち 街

27日 夏のファイナーレを飾る 豊川手筒まつり

第二十四回豊川市民まつり「豊川手筒まつり」が、市野球場で行われました。

また今回は、東日本大震災復興を願う花火や募金箱の設置も行われました。

オープニングの市民おどり、大筒の練り込みにつき、市内十二連区による約四百本の手筒煙火や打ち上げ花火、仕掛け花火などがあり、多くの観客は色とりどりの花火の競演を楽しみました。



7日 戦没者へ哀悼の誠を表し 世界の恒久平和を願う平和祈念式典を開催

市では、豊川海軍工廠の被爆の歴史と平和の尊さを次代へ引き継ぐために、文化会館で平和祈念式典を開催しました。

式典の前に、音羽中学校の生徒が平和への願いを込め合唱と朗読

を行い、その後、被爆体験者の石原千代子さんが講演をしました。式典では、黙とうの後、議長の式辞、市長の平和宣言、献花などを行い、参列者は平和への誓いを新たにしました。



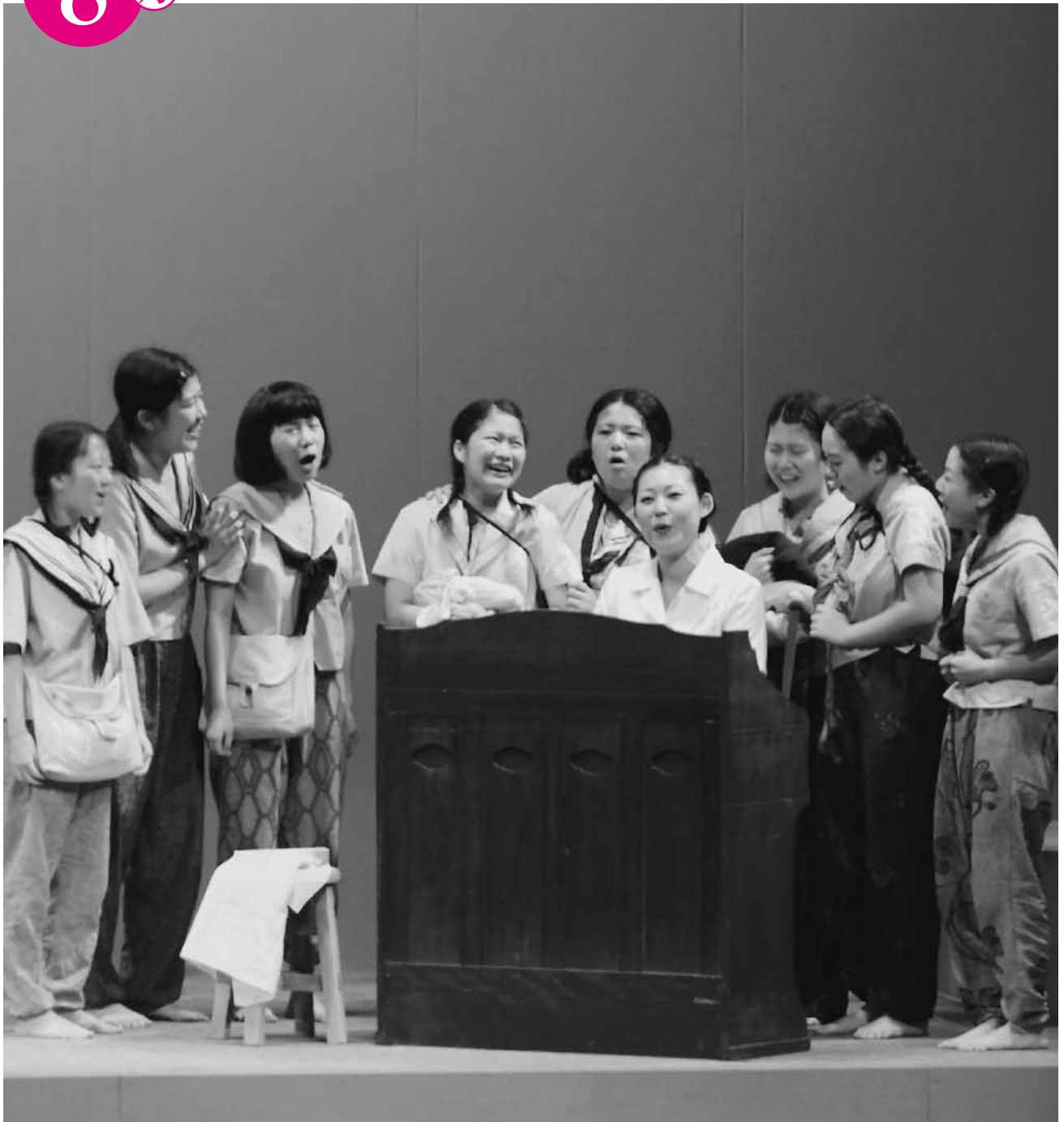
7日 旧東海道御油宿の夏まつり

旧東海道の宿場町である御油町の御油神社で、伝統行事の御油夏まつりが行われました。

この祭りでは、神輿は神社を出発後町内を巡って一泊し、翌日、また町内を巡って神社に戻ります。夜道をたいたまつの明かりに守られながら戻る姿はとても勇壮です。六地区からの山車や巫女車も町内を巡り、御油橋を渡る山車の華やかな動きを多くの観客が夏空の下で眺めていました。



8月



6日
「工廠の記憶を伝える
「残された夏へ」

市では、東三河演劇祭企画作品として、豊川海軍工廠の被爆をテーマにした演劇「残された夏へ」を文化会館で上演しました。この作品では、工廠に学徒動員された八人の女学生を中心に、戦争への思い、家族や仲間との絆、将来への夢や不安などが表現されました。出演者の迫真の演技に会場内は静まり返り、上演後は、涙を浮かべた多くの観客から大きな拍手が送られていました。